

JCで担当業務を自分らしく工夫する

藤本 正己(山口大学 教育・学生支援機構 教学マネジメント室 講師)
坂本 規孝(広島市立大学 情報統括センター 特任講師)

講師略歴

【藤本正己】専門は高等教育論。2008年に徳島文理大学に大学職員として入職後、情報センターで学内システムの運用・管理の業務、教務部教務課において入試業務を担当。2022年1月に愛媛大学教育企画室特定研究員、特任助教を経て、2023年4月より現職。現在はFD・SD・IRの業務を行っている。愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室プロジェクトフェロー。

【坂本規孝】2006年4月、学校法人立命館に専任事務職員として入職。立命館大学、立命館アジア太平洋大学、法人本部において、教学、留学生入試、新キャンパス開設、新学部設置、役員秘書等を担当。さまざまな企画や業務改善に携わった。愛媛大学教育企画室を経て、2024年4月より現職でIRを担当。SPOD-SDC。

プログラム概要

大学職員の業務は、ルーティン化され前例踏襲に陥りがちです。しかし、大学を取り巻く環境の変化を踏まえると、自分の業務に納得感を持ち、主体的に向き合う姿勢が必要になるのではないのでしょうか。

本プログラムでは、ジョブ・クラフティング(以下、JC)の考え方をもとに、業務に自分なりの工夫や関心を取り込む働き方の理論を学び、業務における実践方法を考えます。自らの業務の進め方(業務の視点)、業務で関わる人とのつながり(関係性の視点)、そして仕事の意味づけや捉え方(認知の視点)を見直し、自分らしい働き方を調整・工夫することを目指します。本プログラムでは最終的に、JCの3つの視点を踏まえ、個人ワークや参加者同士のワークを通じて、明日から業務で実践できそうな工夫点を考えてもらいます。

準備物・事前課題

なし

主な受講対象者

1. JCに興味・関心のある大学職員
2. 自分らしさを取り入れて業務を遂行したい大学職員

到達目標

1. JCが必要とされる背景を説明することができる。
2. JCの3つの視点を説明することができる。
3. JCを活用して、担当業務に自分らしさを組み込むことができる。